

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 2 月 7 日 10:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～42,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～45,000 ドル
(S&P500) 5000～6200

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～109.881

(おしらせ)

2 月 11 日(火)は休日(建国記念の日)のため、本レポートは休載致します。
本レポート次回更新は 2 月 12 日(水)を予定しています(宮田)。

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。
相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

2025 年に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4 万 3000 円-4 万 5000 円]です※。

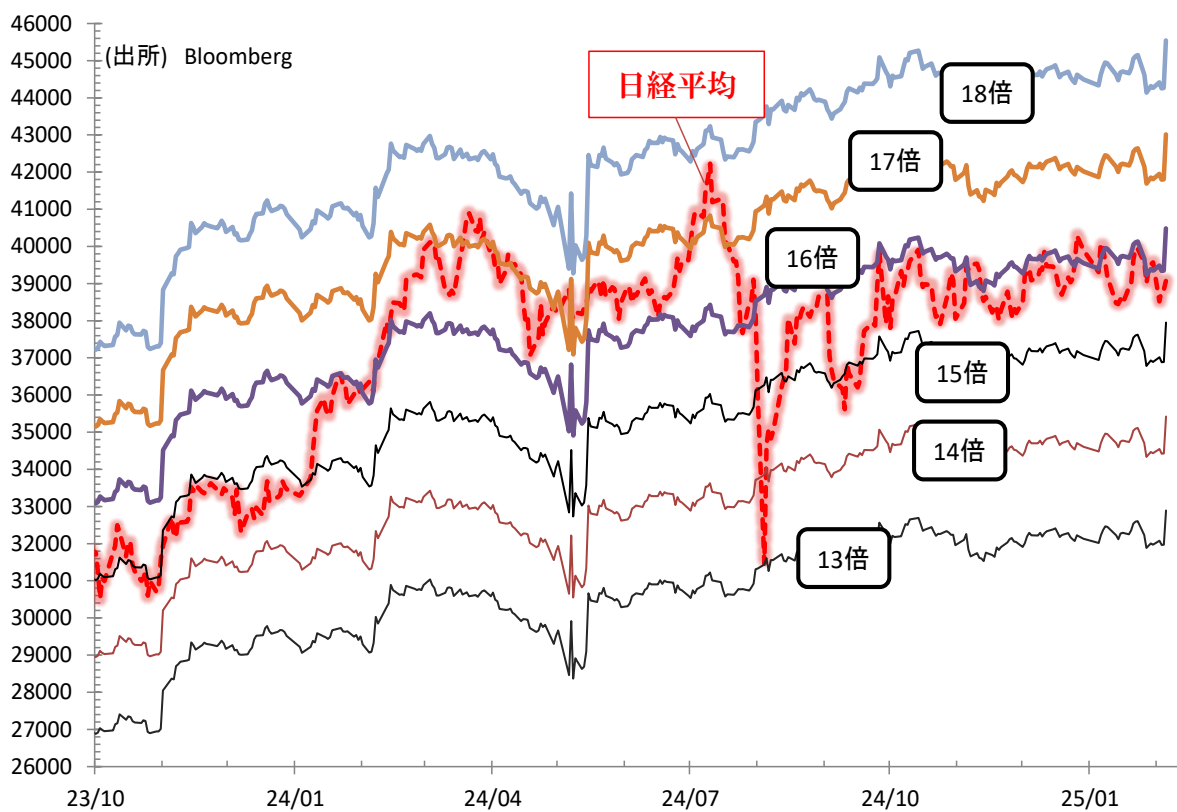
この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来 5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

なお 24 年 7 月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いているとみられます。この見方によると、第(5)波上昇が始まる前に、日経平均は(4)-C 波によって大きく下押すことになります。

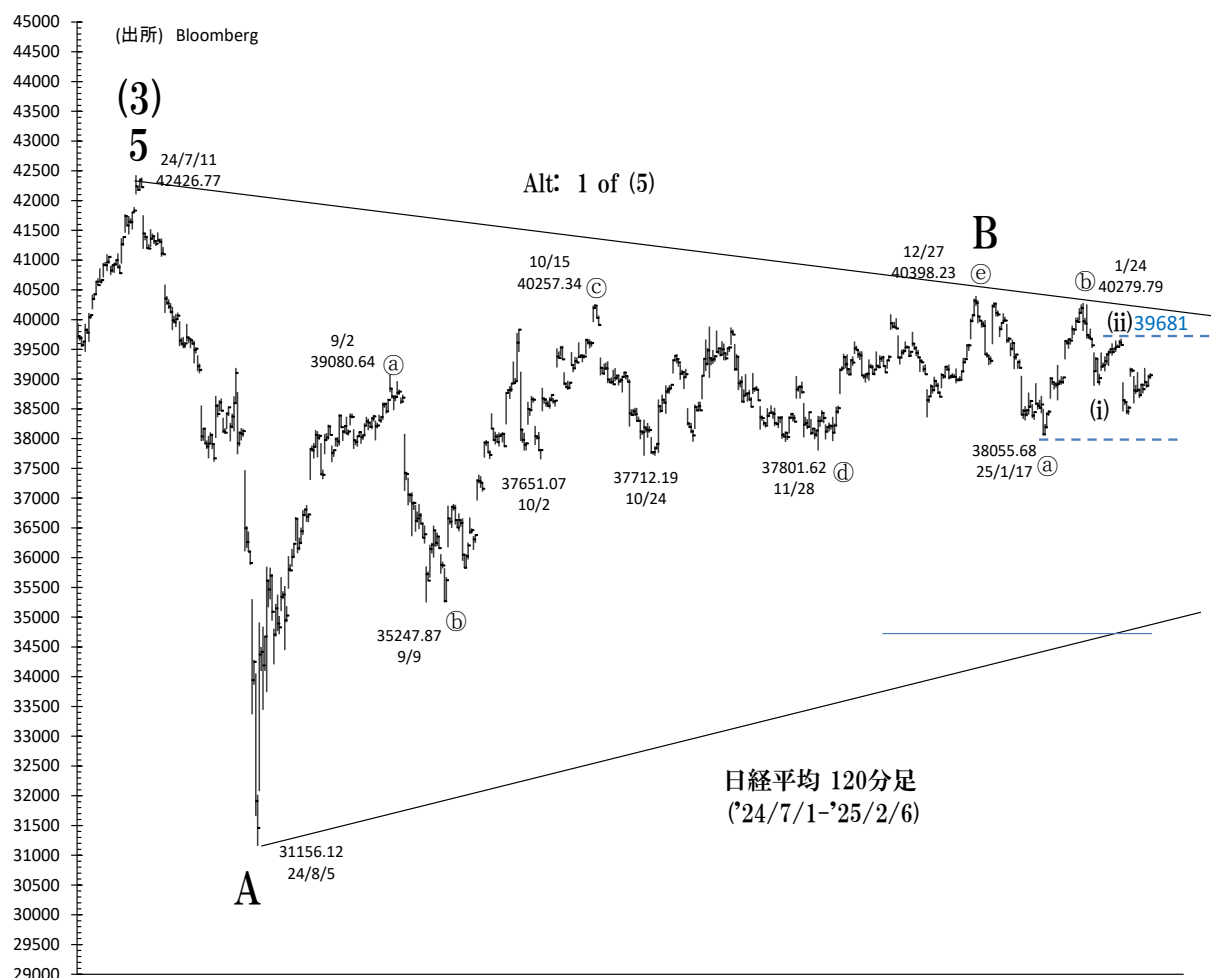
※2025 年の日経平均予想レンジは[3 万 5000 円-4 万 5000 円]です。



[予想 PER 別の日経平均水準]



2月6日の日経平均予想 EPS は 2530 円。24 年 10 月 5 日の 2514 円を上回り、過去最高水準となりました。



【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)から第(4)波中 C 波による下落局面が進行中とみられます。C 波は 24 年 8 月以来約 5 カ月にわたる上昇ウェッジから下放れ後、24 年 8 月底に次ぐ二番底を付けにいく波です。

第(4)波は「シメトリカル・トライアングル」を形成中とみていますが、それによると 40,398 円(12/27 高値)からの下落は(4)-C 波(①-②-③)に当たります。

さらに 39,681 円(1/24 高値)からの下落は③-(iii)波とカウントでき、それは**短期的にも 38,055 円(1/17 安値)を下抜く可能性**があります。

日経平均は当面 24 年 10 月からのレンジ相場下限(37,650~37,800 円)を試し、今月から来月には、24 年 9 月安値の 35,247 円を一時的にも下回る可能性があります。

NY ダウ・S&P500



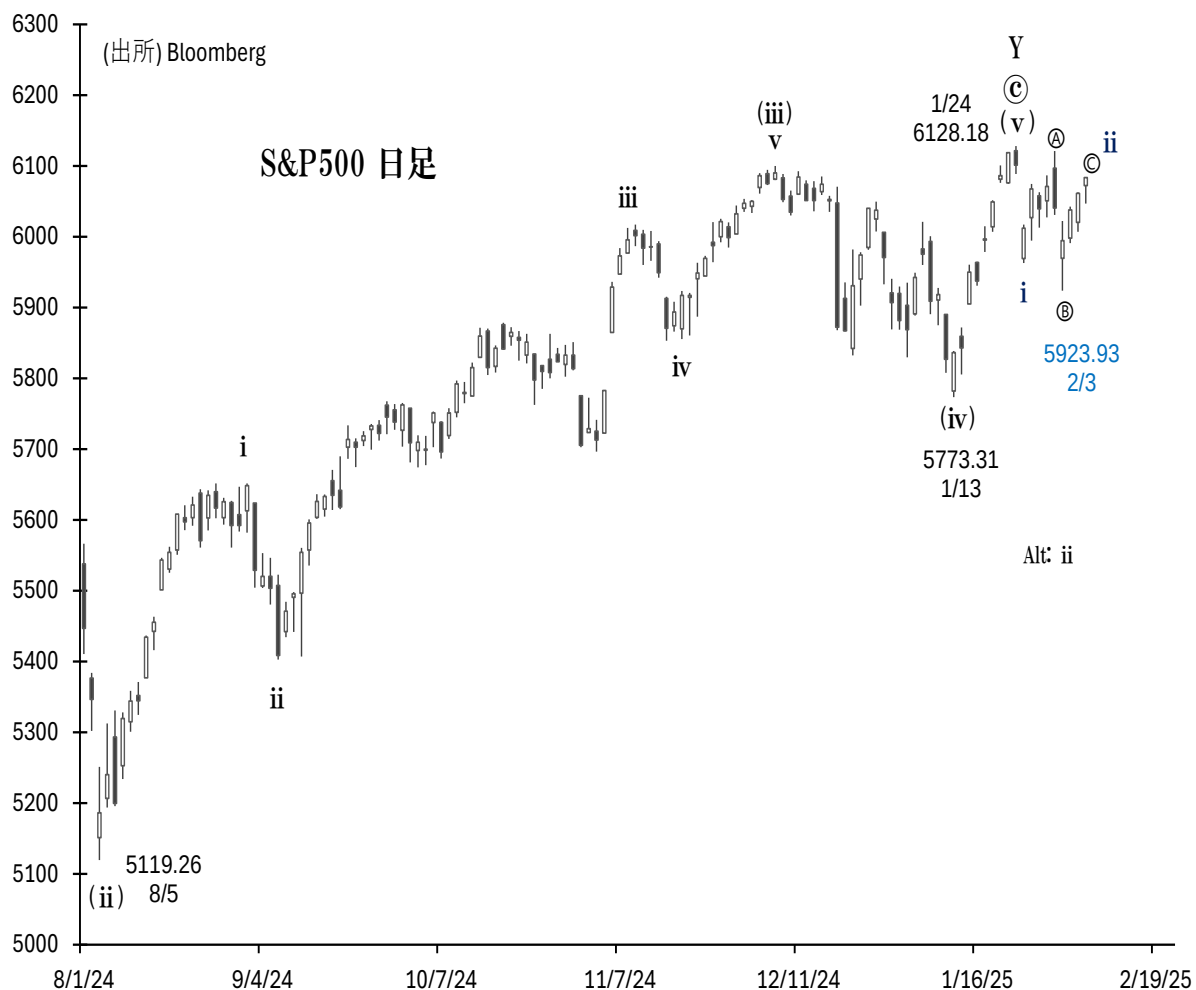
【日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660 ドル)以来の上昇(B)波を 45,073 ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24 年 4 月安値(37,611 ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、この時点における NY ダウの高値からの下げ率は 16.5%です。

一方、上昇継続の場合は、41,844 ドル(1/13 安値)からを第(v)波による上昇とカウントします。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

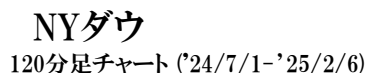
1 月 24 日の S&P500 の最高値(6128.18)は、NY ダウによっては確認されていません(NY ダウの最高値は昨年 12 月 4 日)。これら二つの指数間の未確認は、これらが重要な高値を付けた可能性を示しています。

S&P500 はフラット(④-⑤-⑥)による第 ii 波(サブミニュエット級)を足元で終えたか、終えつつあります。そうであれば目先のにも第 iii 波による下落が始まり、早々に 5923(2/3 安値)を下抜き、さらに 5773(1/13 安値)への下値試しとなるでしょう。

ただしこの波動カウントは 6128.18 を抜くと否定され、5923(2/3 安値)からを第(v)波中第 iii 波の上昇とカウントし直します。この場合、S&P は[6145-6161]を試す可能性があります。

[6145]…22 年 1 月～10 月の下げ幅に対し倍返し水準のこと

[6161]…1929 年天井からの長期レジスタンスライン

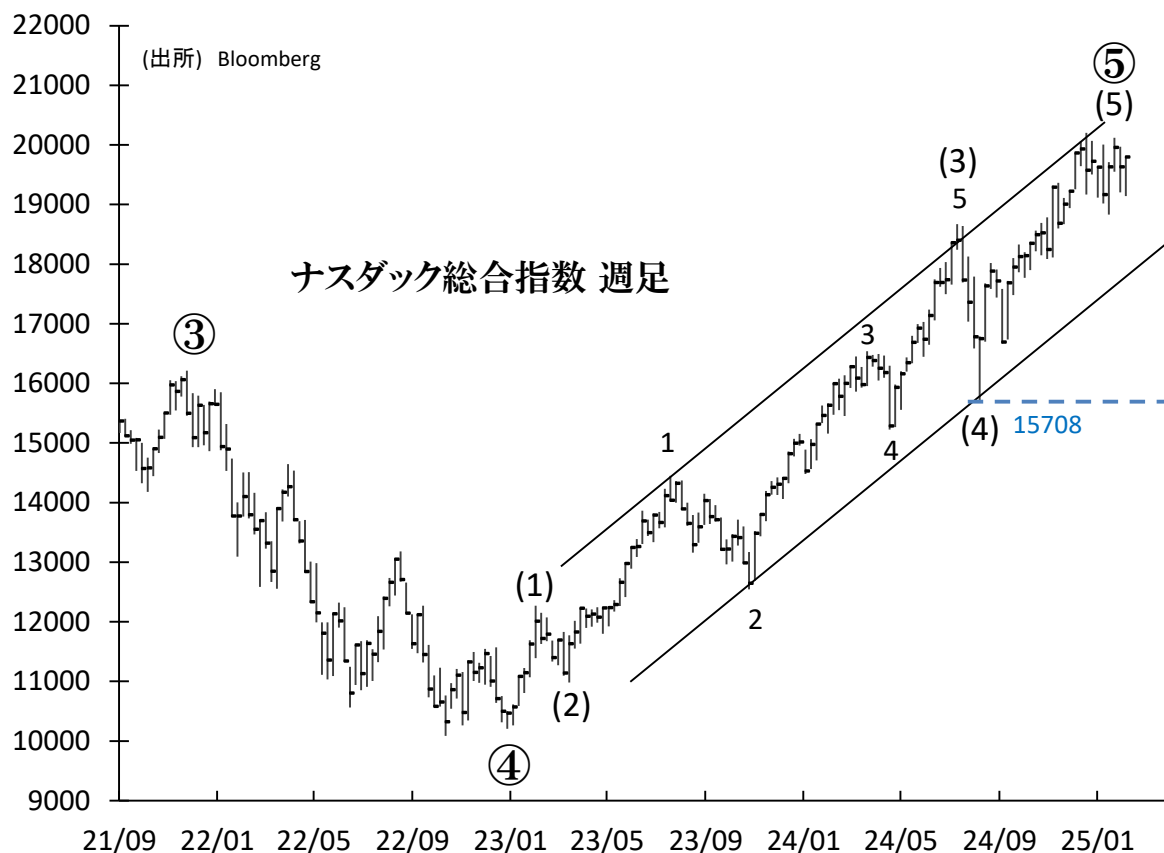


45,054ドル(1/31 高値)を以てマル ii 波は終了し—45,073ドル(12/4 高値)とダブル・トップ形成—そこからはマル iii 波による下落が始まった可能性があります。

43,879ドル(2/3 安値)からのマル iii 波中第 ii 波によるリバウンドは、44,966ドル(2/6 高値)で終わったか、終わりつつあるとみられます。そうであれば、**まもなく第 iii 波による下落が始まるでしょう**。第 iii 波の下げ幅は、第 i 波の下げ幅(1175ドル)を大きく上回ることが想定されます。

上記見通しに代わるオルタナティブ・カウントは、41,844ドル(1/13 安値)から第(v)波による上昇とみなし、1 月からの下落は(v)波-ii 波に当たる、というものです。この場合、次は第(v)波-iii 波の上昇により、最高値を更新する展開が想定されます。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、プライマリー級の第⑤波とみられます。

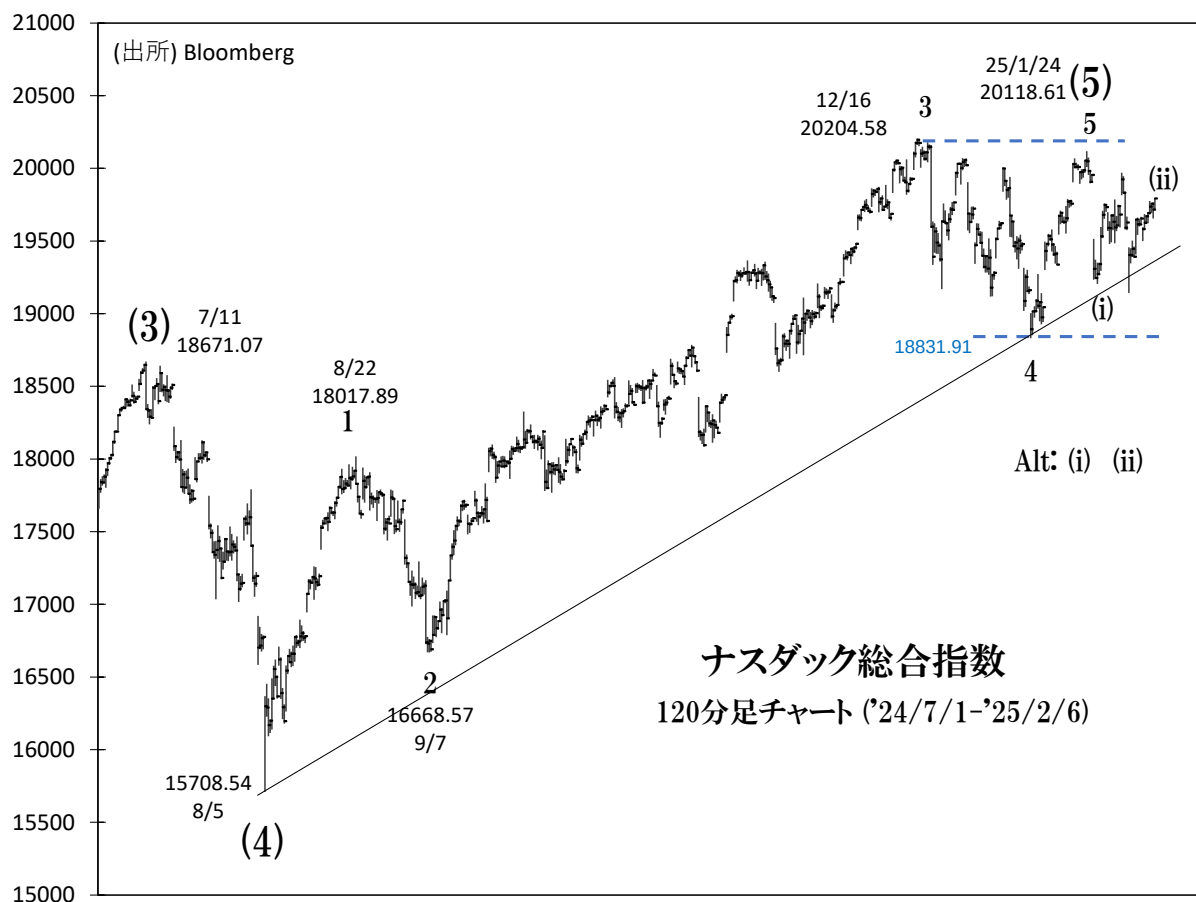
この波動カウントによれば、第⑤波は五波構成((1)~(5))です。24 年 8 月安値 15,708 からの第⑤-(5)波による上昇が完了すると、長期上昇トレンドが終了します。

実際、ナスダックは長期的な天井を付けた可能性があります。

SOX 指数(フィラデルフィア半導体株指数)は 24 年 7 月に頭打ちとなり、足元は「上昇ウェッジ」(弱気パターン)下辺からの下放れ局面に入っています。今後は一段と下落基調を強める可能性があると考えられますが、そうであれば遠からず SOX 指数は 24 年 8 月安値を下回るでしょう。

ナスダックはサイクル級の調整に入った可能性があります。もしもサイクル級の調整に入ったのであれば、その調整規模は大きく、期間的にも長くなることが想定されます。





【時間足 エリオット波動分析】

18,831(1/13 安値)からの第(5)波の第 5 波は、20,118(1/24 高値)を以て終わった可能性があります。第 5 波高値は、第 3 波高値(20,204)に及びませんが、これは「truncated fifth wave(短縮した 5 波)」だった、とみるのが適当でしょう。

足元ナスダックは第(ii)波「フラット」によるリバウンドをほぼ終了。第(iii)波の下落が目先的にも始まる可能性があります。この第(iii)波は 18,831(1/13 安値)を早々に下抜く動きとなりましょう。

ただし 18,831 を維持する限り、ナスダックの第 5 波上昇が続いている可能性は残されます。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は135.910円(2月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.280円(2月)です。



【週足 エリオット波動分析】

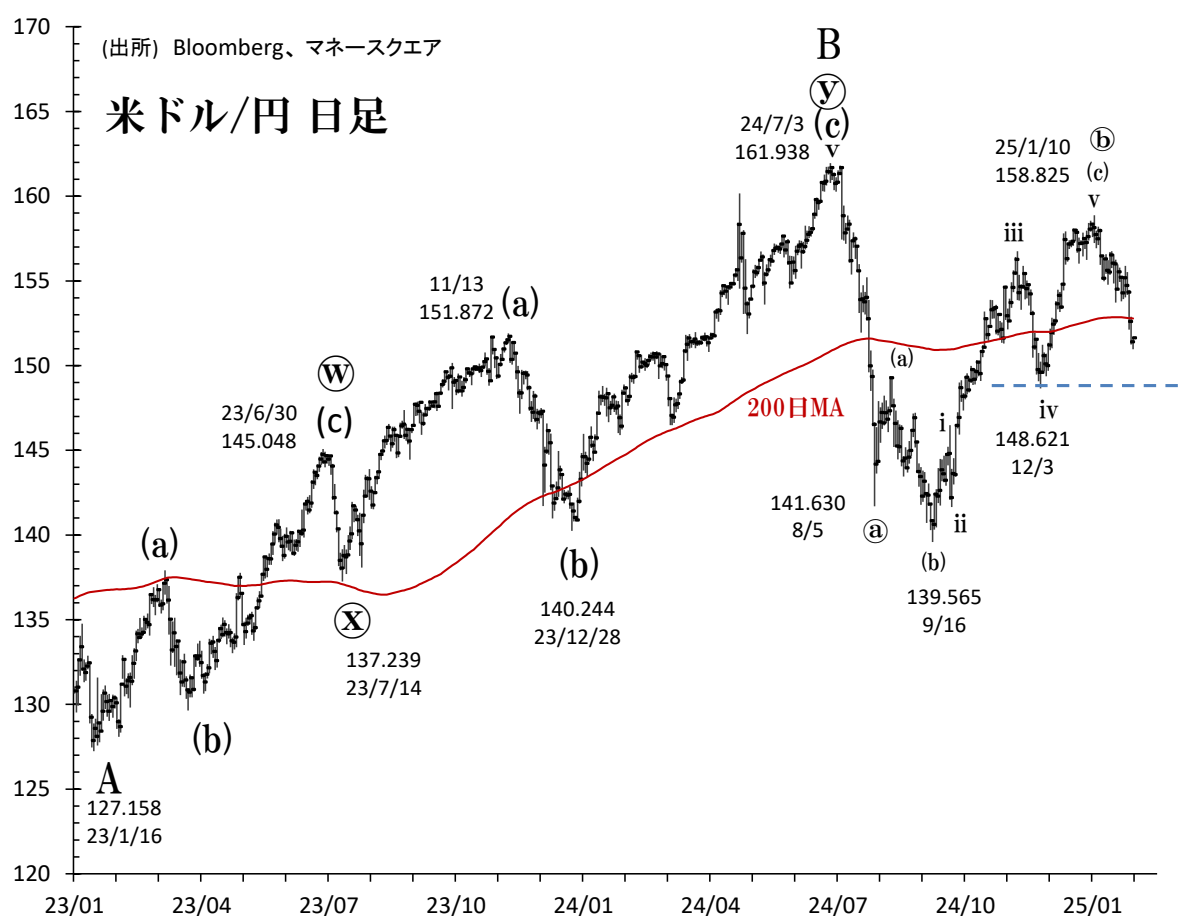
161.938 円(7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]仮説によれば、C 波は三波構成 (a)–(b)–(c) になります。

158.825 円(1/10)から © 波によるドル安・円高が進行中、とみられます。

そうであればドル/円は、**おそらく今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜くことが予想されます。**その際は以下が © 波ターゲットとして注目できます。

[138.517 円]… © 波と © 波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

2月5日にドル/円チャートは一目均衡表(示さず)の雲(支持帯)から明確に下放れを開始しました。併せて「三役陰転」というドル/円売りシグナルが点灯しました。それに加え、チャートは 200 日 MA を明確に下抜いています。それらは、158.825 円(1/10)から◎波によるドル安・円高が始まった、という見方を裏付けるものです。

目先、ドル/円は 150 円大台の攻防となりそうです。150 円を下回ると、次は[149.195 円-146.922 円]への下値模索となりましょう。このレンジは、9 月からのドル/円上昇に対する 50%-61.8%戻りに当たります。

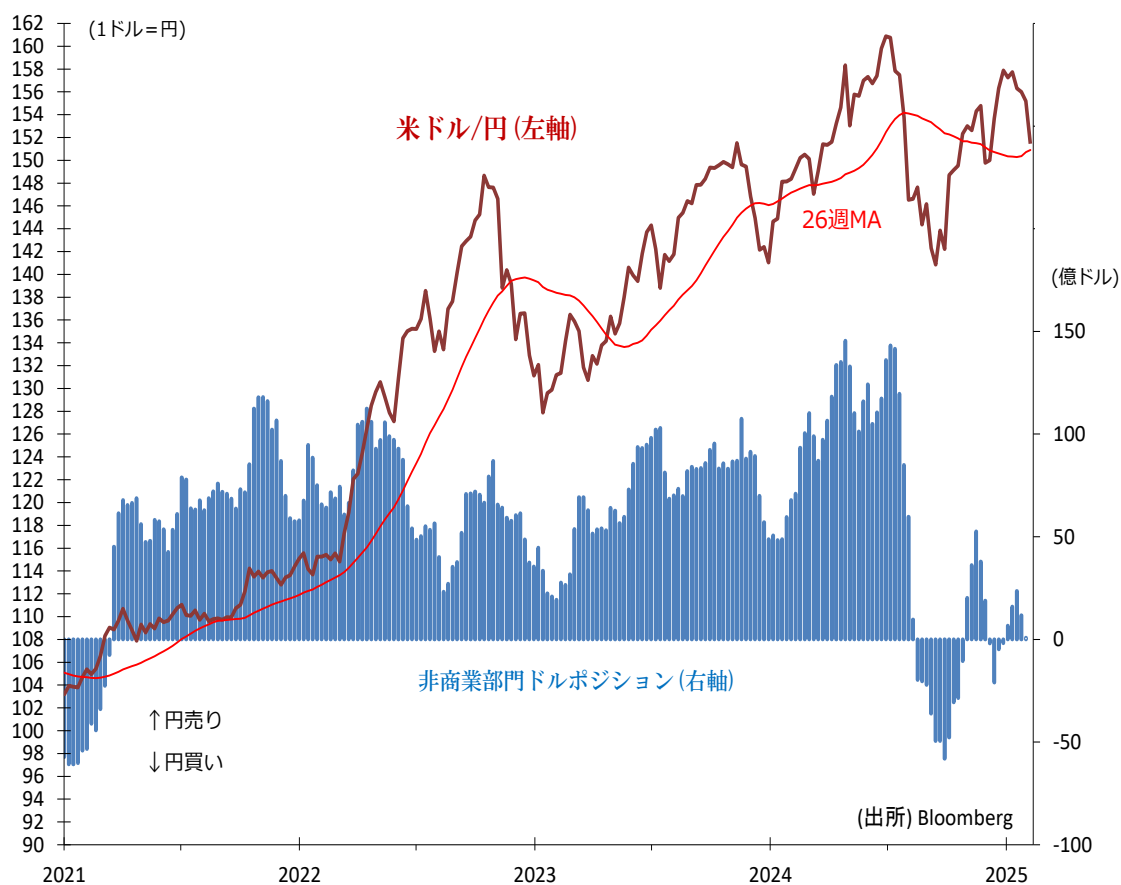
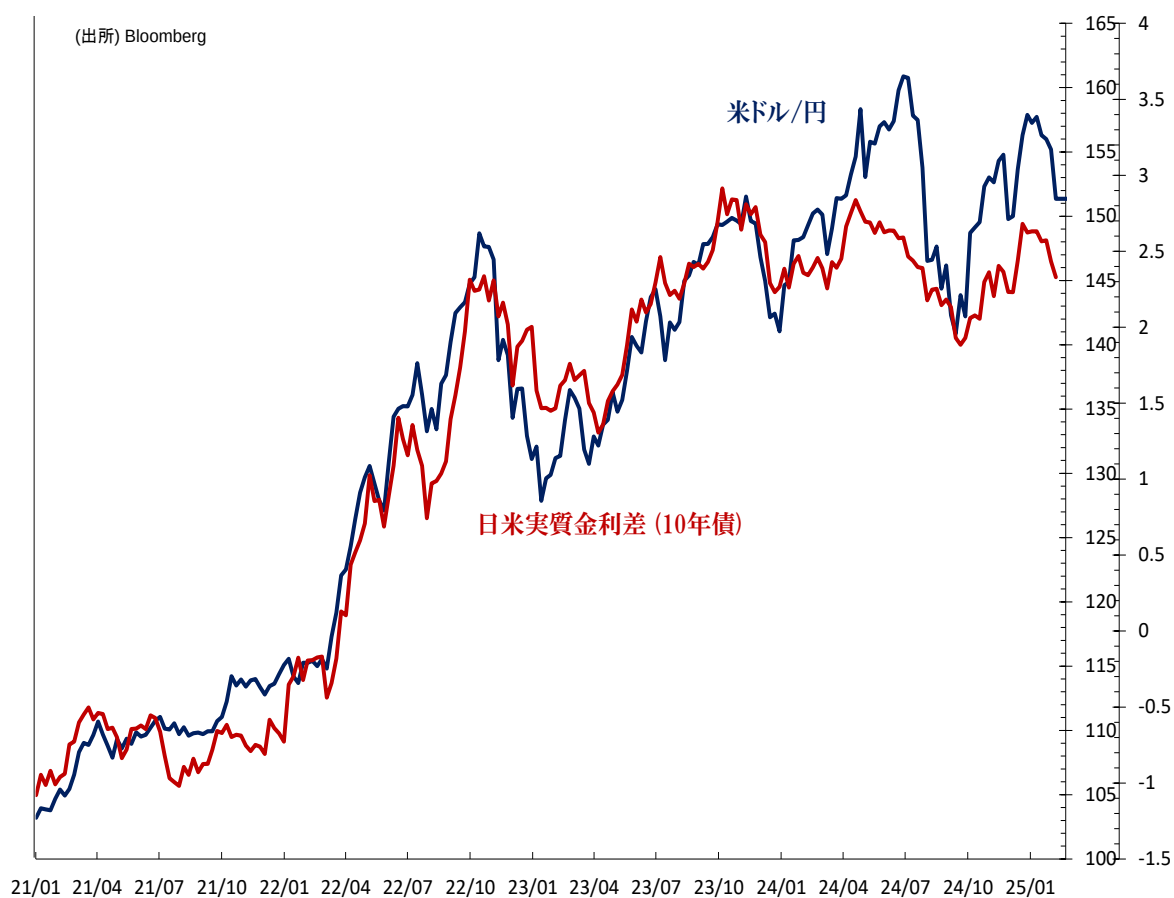
金利差からのドル/円推計値

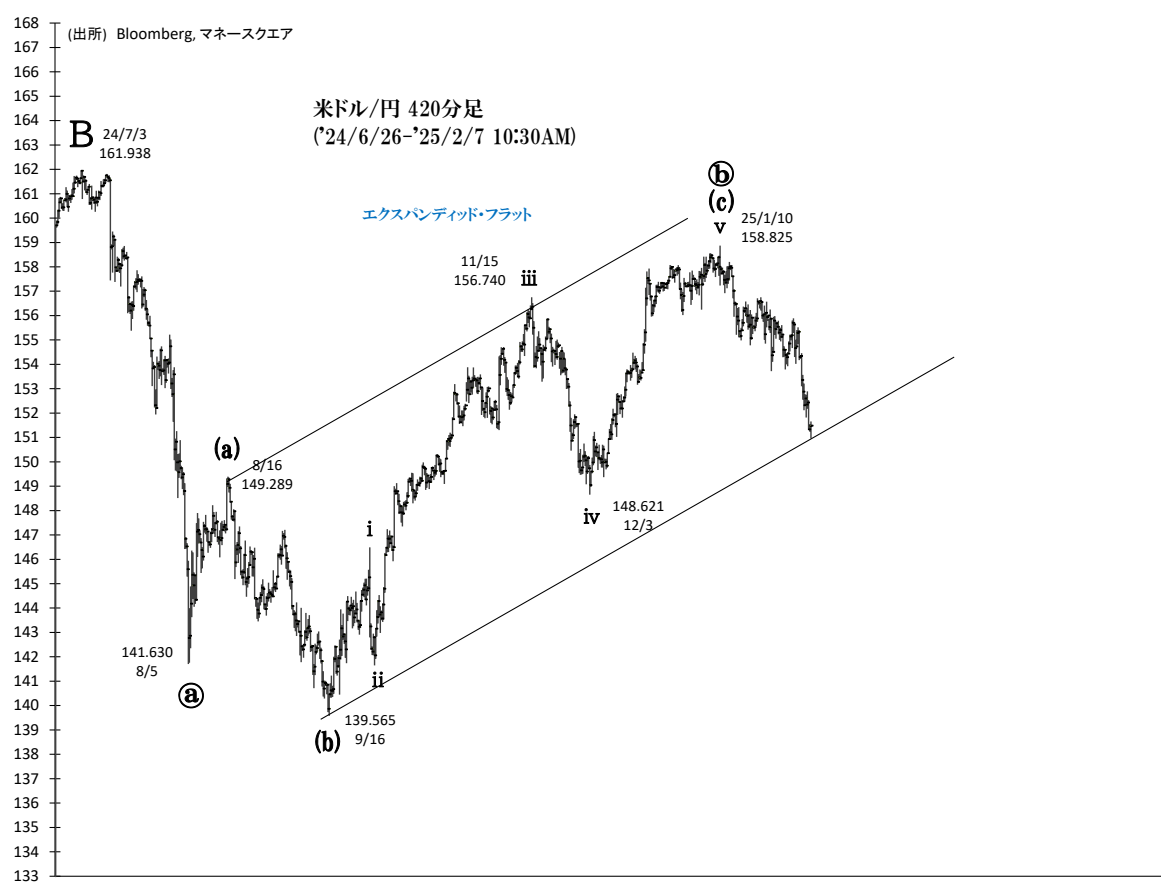
日本国債 10 年物(JGB10 年)は一時 1.295%へ上昇しました(2/5)。それは 1.515%-1.615%へさらに上昇する可能性があり、今後も日米金利差の縮小が想定されます。

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[147.497 円]です。

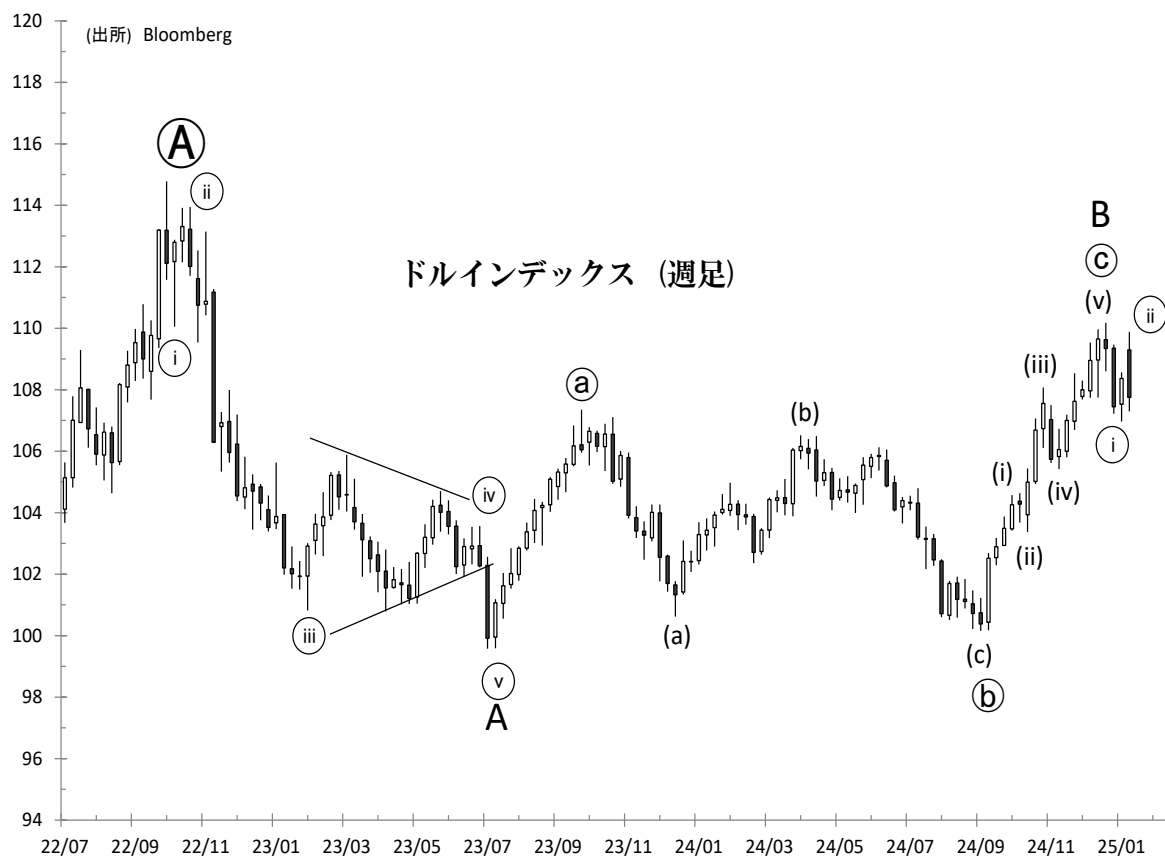
投機筋の円売り持ち高が 2 週連続で減少(2025 年 1 月 28 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)による円売り持ち高は 2 週連続で減少。前週の 11.8 億ドルから 0.77 億ドルとなり、持ち高ニュートラルに近づいています。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)を以て 24 年 9 月からの B 波-Ⓒ波は終わり、C 波によるドル安トレンドが始まった可能性が高い、とみられます。

109.881(2/3 高値)からは、マル iii 波によるドル安が始まったとみられますが—1 月高値とダブル・トップを形成—そうであればドル指数は短期的にも 106.969(1/27 安値)を下回る展開となりそうです。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドルは 10 カ月で 13.2%減価しました。この A 波の期間と下落率は、C 波を考える上で参考になるでしょう。

筆者はドル指数が今年中に、23 年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
